

BUDŌ NEWS

今月のニュース

平成 28 年 鏡開き式・武道始め



出陣の儀

平成28年 鏡開き式・武道始め

新春に、更なる武道の隆盛を誓う



大將軍による鏡開き

新春恒例の武道行事である平成28年「鏡開き式・武道始め」(主催Ⅱ公益財団法人日本武道館)が成人の日の1月11日に、日本武道館において、東京を初めとする武道関係者・愛好者約2500名が集まり、盛大に開催された。

行事は、よろいぎせ鎧着初め・鏡開き式、各武道代表者による模範演武、各道愛好者による武道始め・おしるこ会の三部で構成され、各関係者は新春の決意新たに、鎧着初め、演武、あるいは稽古を行った。

開会式では、まず、松永光日本武道館会長より主催者挨拶があった。

「平成28年の素晴らしい新年を日本武道館は皆さんとともに迎えることができました。日本の武道は深い歴史に裏打ちされた伝統文化であります。その武道の殿堂である日本武道館で、本日、武道始めを行えることは誠に喜ばしいことであります。日本は武道の国であり、武道は国家・社会の平和と繁栄に寄与する人間形成の道であることを、今後とも全国民一人一人に対し、浸透させていきたいと存じます。



豊田真由子文部科学大臣政務官



島村宜伸日本武道館常任理事



臼井日出男日本武道館理事長



松永光日本武道館会長



出陣の儀

皆様方におかれましては、厳しい武道の修練を通して、益々の健康な精神と身体を造っていただきたいと思います

次に豊田真由子文部科学大臣政務官より来賓祝辞が述べられた。

「平成28年鏡開き式・武道始めが大勢の皆様方のご参加を得て、盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。武道は修練により、心技体を一体となつて鍛え、人格を磨き、道徳心を高め、平和を願う人間形成の道であり、我が国が世界に誇る伝統文化であります。皆様方にとってこの鏡開き式・武道始めが、一年の大きな弾みになることを願い、ご挨拶とさせていただきます」

引き続き、日本武道協議会による平成27年度武道功労表彰式が執り行われた。式典では、武道の振興に寄与し、顕著な成果を挙げた武道功労者10名、武道優良団体9名が表彰され、松永光日本武道協議会会長より、功労者には表彰状と功労章が、優良団体には表彰状が授与された。また、功労者については、その氏名をプレートに刻み、日本武道館内に掲出し、その功績を顕彰した。



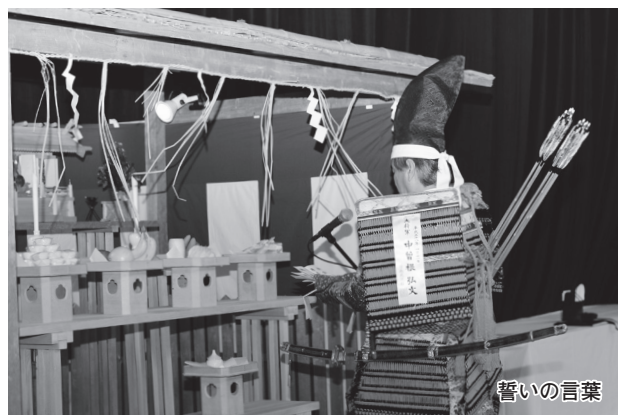
【武道功労者】

- ◇柔道 関根 忍（東京）
- ◇剣道 福本修二（神奈川）
- ◇弓道 林 初男（千葉）
- ◇相撲 大野孝弘（神奈川）
- ◇空手道 栗原茂夫（東京）
- ◇合気道 高本和宜（熊本）
- ◇少林拳法 今井明雄（兵庫）
- ◇なぎなた 畠瀬美佐子（岡山）
- ◇銃剣道 石川貴史（京都）
- ◇日本武道館 中曾根弘文（群馬）

【武道優良団体】

- ◇柔道 筑波大学柔道部
- ◇剣道 全日本武道具協同組合
- ◇弓道 佐賀市弓道連盟
- ◇相撲 東京大学運動会相撲部
- ◇空手道 北広島市
- ◇合気道 福島県合気道連盟
- ◇少林拳法 京都府少林寺拳法連盟
- ◇なぎなた 和歌山県なぎなた連盟
- ◇銃剣道 陸上自衛隊高等工科学学校銃剣道部

※武道功労章受章者による寄稿文は11～31頁に、武道優良団体の紹介は164～165頁に掲載されています。



誓いの言葉



三献の儀

鎧着初め・鏡開き式



副将軍による鏡割り

大將軍・副將軍に聞く「年頭にあたって」



◎大將軍Ⅱ中曾根弘文日本武道館理事
なかそねひろふみ

「武者鎧は非常に重いですが、鎌倉時代の武將になったような気持ちで行いました。当時の武將・武士が戦争に行く時の、まさに『いざ鎌倉!』です(笑)、そういう気持ちがある」となく分かったような気がします。

武道は武士道の精神に基づいて、日本の古来から行われております。今の日本にはスポーツもあります

が、やはり礼に始まって礼に終わるというように、武道は日本の精神文化でありますので、多くの国民の皆さんに行っていたら、日本の良き伝統を継承していただきたいと思います。武道には道徳的な意味がありますので、武道を通じて日本の心というものを、国民皆がしっかりと持ってもらいたいです。

また、私の立場でもぜひ推進、振興に努力していきたいと思えます」



◎副將軍Ⅱ酒井健全日本銃剣道連盟会長
さかい たけし

「年初めの清々しい雰囲気の中で、副將軍のお役目を頂戴しまして、極めて爽やかでかつ緊張しました。大変いい役をさせていただき、感謝しております。

本年、全日本銃剣道連盟は60周年を迎え、9月24日に、日本武道館の協力を得まして、全国の都道府県對抗の銃剣道大会を、国体に代わって開催します。平成28年度は非常に大きな年でありますので、今回いただいた機会をしっかりと心に刻んで、素晴らしい一年にしていきたいと思っております」



出陣の関をあげる

鎧着初め・鏡開き式では、大將軍を中曾根弘文日本武道館理事、副將軍を酒井健全日本銃剣道連盟会長、永田仁志日本甲冑武具研究保存会会長が務めた。

出陣に際し、三献の儀が行われ、大將軍の前に「打って・勝って・喜ぶ」に准えた肴(打鮑、勝栗、昆布)が一皿ずつ盛られ、酒が注がれた。大將軍は所作に倣い、肴を食し、酒を飲み干した。続いて大將軍、副將軍らが神前に赴き、年頭にあたっての誓いの言葉を述べ、再び場所を移し、鏡開きとなった。大將軍は一年の無病息災と更なる武道の隆盛を願い、勢いよく鏡餅を打ち砕いた。続けざま、副將軍が酒樽を割ると、会場内からは拍手が沸き起った。

出陣では、大將軍は兜をつけ、左手に弓、右手に扇を開いて立ち上がり、「えい!えい!」と声を張ると家来一同が「おう!」と力強く応え、三唱した。これを「関をあげる」という。最後に行進に移り、武者装束に身を包んだ現代の武士達は大道場を当時の戦闘法に倣い、反時計回りに悠々と歩行し、鎧着初め・鏡開き式は終了した。

模範演武



弓道



柔道



少林寺拳法



剣道

模範演武に先立ち、白井日出男日本武道館理事長より挨拶があった。「これより、ご披露致しますのは、現代武道9種目、各武道を代表する方々による模範演武であります。」

日本武道は平成24年度より全国の中学校において、必修化となりました。武道は青少年の心、精神を健全に養う一助となります。これからも皆様のご指導、お力添えを賜りますことを願い、挨拶とさせていただきます」

演武は、弓道「二つ^{ひと}的坐射礼^{まどざしやれい}」から始まり、柔道「古式の形」、剣道「全日本剣道連盟杖道」、少林寺拳法「女子組演武」「団体演武」「自由組演武」、相撲「相撲の基本動作と技・決まり手の説明」、銃剣道「銃剣道の形」「銃剣道応用技・試合」、合気道「基本技「投げ技・固め技」「応用技「短刀取り」「自由技」、なぎなた「全日本なぎなたの形」、空手道「雲水(ウンスー)」が行われた。

各道を代表する修練された模範演武を目の当たりにし、稽古会参加者は見入り、それぞれの演武が終了すると場内からは大きな拍手が沸き上がった。



銃剣道



相撲



空手道



なぎなた



合気道

◎模範演武者（演武順）

◇弓道 土佐正明教士八段、荒川博行教士七段、小牧佳世教士六段

◇柔道 清家春夫八段、加藤隆雄七段

◇剣道 釣賀敏郎杖道教士八段、藤崎興朗杖道教士八段

◇少林寺拳法 石井明仁大拳士五段、川島佑斗正拳士四段、堀尾愛正拳士四段、三橋智恵中拳士三段、畔蒜みく中拳士三段、杉森郁美中拳士三段、重田優妃少拳士二段、幾川柚香准拳士初段、浮田かなな准拳士初段、加来穂夏准拳士初段

◇相撲 舛田守八段、坂本健参段、高橋幸貴参段、棟方和哉参段、山市康寛参段、川本楓参段

◇銃剣道 久保田学教士七段、坂元誠教士七段、栗原毅錬士六段、小倉弘之錬士六段、小林継人錬士六段、竹内巨樹錬士六段、栗原惇錬士六段、橋本真悟五段、白石勝太五段、岩下英樹五段

◇合気道 栗林孝典七段、櫻井寛幸六段、鈴木俊雄五段、小山雄二五段、日野皓正四段、徳田雅也三段、里館潤三段、松村光武二段

◇なぎなた 吉井美恵子範士、小野恭子範士

◇空手道 西原啓太武段、志村昂紀武段、本一将武段

武道始め・おしるこ会



武道始めでは、まず島村宜伸日本武道館常任理事より、「武道は礼に始まり、礼に終わります。そしてもう一つ大切なことは、あらゆる事の基礎をしっかりと身につけることとあります。基礎をしっかりと身につければ、厳しい練習にも耐えることができるようになります。皆様にとつて今年一年が素晴らしい一年になりますようお願い、ご挨拶とさせていただきます」との挨拶があった。

続いて、約1400名の稽古会参加者は、日頃の成果を発揮すべく、大道場いっぱいに広がり、元氣よく稽古に励んだ。真冬の冬空の下にも、場内は熱気に包まれていた。

行事の最後は「おしるこ会」となり、お汁粉と、成人には酒樽のお酒も振る舞われた。参加者達はアツアツのお汁粉を頬張り、稽古の疲れも忘れ、新年の初稽古に満足の様子で、談笑し合った。



講道館鏡開式

原点に立ち返り、

正しい柔道の普及を推進

講道館鏡開式は、快晴の日の1月10日、講道館大道場で、全国から約650名の修業者、関係者が集まって行われた。

式は午前10時に開会。はじめに、館員を代表して五十嵐寛司八段が賀詞を述べ、続いて上村春樹館長が新年の挨拶に立った。

「柔道界の繁栄と柔道の正しい発展のために、柔道人が一丸となって取

り組んでいかなければならないと思っております。そのために、競技としての柔道と、人づくりとしての柔道の発展を力強く推進していきます。原点に立ち返り、地道に『精力善用』『自他共栄』の実践に努め、後世に正しく柔道を伝えていく所存であります。館員の皆様には今年もご指導、ご支援、ご協力の程よろしくお願い致します」と挨拶し、柔道の更なる発展のため、関係者への協力呼びかけた。

その後、形演武（投の形、固の形、極の形、講道館護身術、柔の形、五の形、古式の形）、強化選手との少年部・女子部・成年部の乱取稽古、柔道舞踏が順に披露され、昇段発表証書授与では、各段位に昇段した代表者に上村館長が証書を手渡した。最後はしるこ会となり、参加者はしるこに舌鼓を打ちながら、会話にも花が咲き、和やかに新年を祝った。



上村春樹館長



男子乱取り稽古



柔道舞踏



しるこ会

■形演武者

◇投の形Ⅱ取・内村直也六段、受・横山喬之五段◇固の形Ⅱ取・下山陽邦五段、受・石堂勇人七段◇極の形Ⅱ取・向井幹博七段、受・高野賢司六段◇柔の形Ⅱ取・石田桃子女子四段、受・石田真理子女子参段◇講道館護身術Ⅱ取・真喜志慶治七段、受・福地賢志郎六段◇五の形Ⅱ取・宇津木俊博八段、受・片田誠八段◇古式の形Ⅱ取・宗義明八段、受・菅波盛雄八段

合気会鏡開き式

関係者800名が新年を盛大に祝う

合気会鏡開き式は1月10日、合気道本部道場で開かれ、全国から800名の修業者が集まって新年を祝った。

会場となった合気会本部道場の3階には、開会の1時間以上前から多くの参加者が詰めかけ、満員となった。鏡開き式は午後2時に開会。はじめに、植芝守央合気道道主が年頭の挨拶を行った。

「合気道は現在、世界130カ国に広がっており、この合気道を次世代へ



植芝守央道主

繋いでいくことが私たちの役目です。合気道の精神を活かし、自分自身を高め、社会に貢献すること、そのためには日々の稽古を大切にしてい、しっかりと歩んでいくことが大切です。皆様方とともに合気道の稽古を大切にして、今年1年歩んでいきたいと思えます」と抱負を述べた。

次に、古藤昇司合気会常務理事が挨拶を行い、来賓の山谷えり子前国務大臣が祝辞を述べた。

祝辞の後、植芝道主が奉納演武を披露。続いて推薦昇段発表及び証書授与式が行われ、七段までの昇段代表者と八段昇段者に植芝道主が証書を手渡した。

証書授与式が終わると、直会の準備に移り、参加者に、しるこ日本酒が配られた。直会では多田宏本部師範の挨拶に続いて、赤沼二己男理事の発声で乾杯。参加者は笑顔で歓談しながら、振る舞われた食事を口に運び、賑やかに新年の訪れを祝った。



昇段者への証書の授与



奉納演武を披露する植芝守央道主



直会

新年に1000名の拳士が初稽古

1月10日、「鏡開き・稽古始め」が香川県多度津町にある一般財団法人少林寺拳法連盟本部にて開催された。当日は晴天となり、例年に比べ暖かいこともあり、全国各地より昨年を上回る1000名を超える拳士、保護者、関係者が訪れ、新年の幕開けを祝った。



新井庸弘会長

午前10時30分、会場である錬成道場には全国から参加した拳士、保護者、関係者が集まり「鏡開き・稽古始め」が開催された。はじめに、荒井章士振興普及部部長を主座とする鎮魂行、そして新井庸弘会長より、「昨年の全国大会は京都府にて開催

しました。今年は10月に大分県別府市で開催します。この大会は、来年に開催される少林寺拳法世界大会 in California, U.S.A.の国内予選となります。そして今年は、来年迎える少林寺拳法創始70周年記念事業に向けての準備の年となりますので、皆様のご協力を賜りたいと思っています。少林寺拳法の目的は人づくりによる国づくりです。拳士の皆様には『半ばは自己の幸せを半ばは他人（ひと）の幸せを』の信念をもつて行動できる社会に役立っリーダーになってもらいたいと思っています。修行の目的をあらためて確認して、素晴らしい一年のスタートを切っていきましょう」と年頭挨拶がなされた。

続いて、全体基本が行われ、会場全体には大きな気合いが鳴り響いた。その後、一般の部と少年の部（錬成道場）とそれぞれ会場を分け、初稽古を開始。

少年の部の会場である錬成道場では、稽古に先立ち、連盟職員より今年の干支である「申年」にまつわる話がなされ、「今年の目標を決めて一年間の修練を充実し飛躍の年にしましょう」と言葉が掛けられた。その後、資格別に指導がなされ、最後に技を発表した。錬成道場では、拳士たちの大きく元氣溢れる気合いが鳴り響く中、保護者、関係者からは大きな拍手があつた。

一般の部では、全体で基本演練、剛法「下受蹴」を行った後、有段者と級拳士に分かれ、有段者では「下受蹴小手投」「上受投」「押受投」、級拳士では「両手寄抜」「逆小手前指固」等の法形の指導がなされ、



稽古始めの練習風景

参加者からは的確な指導で分かりやすいと好評であつた。

正午からは、錬成道場において演武披露が行われ、少年少女による演武、女子単独演武、胴を着用しての組演武、男女組演武がそれぞれ繰り広げられた。また本部職員による技法解説では、会場から大きな拍手が送られた。

その後は、全国からの参加者による「演武会」が行われ、約200名が元氣よく演武を披露した。新春にふさわしく、境内では餅つきを行い、ぜんざいが振る舞われ、拳士や保護者で終日賑わっていた。

〔文・写真〕一般財団法人 少林寺拳法連盟



1000名を超える拳士が集まった

内閣総理大臣杯 第43回全日本空手道選手権大会

形

組手

荒賀龍太郎4度目、植草歩初優勝
喜友名諒4連覇、清水希容3連覇



男子組手個人戦決勝＝荒賀（左）の上段突きが決まる

内閣総理大臣杯第43回全日本空手道選手権大会は、12月12日・13日に開催された。12日は東京武道館で、男女団体戦（組手のみ）の準決勝戦までが行われ、13日は日本武道館で男女個人戦（組手・形）、男女団体戦の決勝戦が行われた。場内は、1万3000名の観客で湧いた。

男子組手個人戦は、決勝で荒賀龍太郎（前年度優勝）が篠原浩人（大阪府）を破って2年連続4度目の優勝。女子組手個人戦決勝は、植草歩（千葉）が染谷香予（前年度優勝）を破って初の栄冠を手にした。

男子形個人戦は、喜友名諒（前年度優勝）が新馬場一世（実業団）を5―0で降し、堂々の4連覇。女子形個人戦は、清水希容（前年度優勝）が岩本衣美里（北海道地区）を5―0で降し、3連覇を達成した。

団体戦は、男女とも京都府が優勝。男子8連覇、女子は初優勝に輝いた。

組手個人戦

前年度優勝者と各都道府県、実業団、学連、高体連の代表が出場。トーナメント戦で争われ、試合時間は男子3分、女子2分、8ポイント差がついた時点で勝敗を決した。時間内に8ポイント差がつかない場合は、得点の多い者を勝者とし、同点の場合は5名の審判による旗判定が行われた。

■男子（54名）

前年度優勝の荒賀龍太郎（京都府）が、初戦（2回戦）で山下僚也（三



男子組手個人戦準決勝＝突きに跳ぶ荒賀（左）

重県）に5―0、3回戦は国体軽量級2連覇で弟の荒賀慎太郎（京都府）に5―1、4回戦で入賞経験のある渡邊大輔（東京都）に9―2と、蹴りの大技で得点を積み重ねて勝ち進んだ。

また、飯村吏毅哉（熊本県）が順当に勝ち上がり、4回戦で前々回3位の国吉真太郎（沖縄県）を6―3で破り、準決勝第1試合は荒賀と飯村の対戦となる。

一方、別のブロックではまず、アジアチャンピオンの篠原浩人（大阪府）が1回戦で、全日本実業団優勝の野口雅浩（茨城県）を2―0、2回戦は、世界チャンピオンの谷竜一（実業団）を2―1、4回戦は森優太（神奈川県）に1―0と接戦を繰り広げて準決勝に駒を進める。

また、前回ベスト8の末廣祥彦（東京都）も勝ち上がり、4回戦は渡辺湧（栃木県）を判定で降し、準決勝第2試合は篠原対末廣に決まった。

▽準決勝

荒賀龍太郎 4―0 飯村吏毅哉
開始20秒、先に仕掛けたのは荒賀。素早い中段蹴りで2ポイント先取。

さらに、上段突きを決める。ポイントに動きがないまま残り20秒。ここで飯村が突きで攻めるが、荒賀がカウンターで中段突きを決める。後がない飯村は必死で攻めるが、決めきれないまま試合終了。荒賀は5年連続の決勝進出を決めた。

篠原浩人 5―0 末廣祥彦

互いに仕掛けない状態が続き、両者に忠告が入る。篠原は、なおも機を窺う末廣に、上段突きで先制。続けて、篠原は末廣に上段回し蹴りを決める。再開直後、篠原は末廣のよろけたところをすかさず上段突きを決めてポイントを重ねる。末廣も負けじと攻めるが、篠原は間合いを切つてかわす。そのまま試合終了。篠原は初の決勝進出。決勝戦は荒賀と篠原の関西勢同士の対決となった。

▽決勝

荒賀龍太郎 4―1 篠原浩人

高校時代から何度も鎧を削り合ってきた二人。静かな立ち上がりで牽制し合い、1分が経過。間合いを詰めた篠原が、荒賀の上段突きに合わせて中段突きのカウンターで1ポイ

ントを先取。荒賀は左右の突きで攻めるが、篠原は堅く守る。残り1分。荒賀は篠原が蹴りに出たところ、すかさず中段突きを決め、1―1の同点。残り30秒、荒賀が、篠原の中段蹴りに合わせ、上段突きで逆転。勢いそのまま、荒賀が上段突きでリードを広げる。一発逆転を狙う篠原は上段蹴りを狙うが決まらない。終了間際、さらに荒賀の上段突きで4―1となり、試合は終了。荒賀は2年連続4度目の優勝に輝いた。

◎優勝Ⅱ荒賀龍太郎選手（前年度優勝）

「今年一年間、先にリードされても、そこから何度も逆転することができました。決勝戦ではまだ時間もあつたので、余裕を持って試合に臨めました。来年は世界選手権があり、過去2回連続で決勝で負けているので、その悔しさを晴らすために、頑張っていきたいと思っています」

○準優勝Ⅱ篠原浩人選手（大阪府）

「一回戦から強い気持ちでやっていくというのをテーマにしてみました。決勝はリードしていて、いけるかなとちょっと油断してしまったところが敗因と思っています」

女子（54名）

前年度優勝・染谷香子は勝ち進み、4回戦で健闘を見せた同門の宮原美穂（東京都）に5―4で辛くも勝利。

また、齊藤綾夏（山口県）が、4

回戦で森口彩美（兵庫県）を5―0で退けて準決勝に進み、染谷と対戦。

別のブロックでは、アンダー21世

界選手権者の河村菜摘（宮城県）が

駒を進め、4回戦では山田沙羅（東

京都）を2―0で降して準決勝へ。

前回準優勝の植草歩（千葉県）は

2回戦から登場。畠山穂風（秋田県）

に4―0、3回戦は新垣夏紀（沖縄

県）に8―0で順当に勝ち進む。4

回戦では高校生の尾立佳菜子（大阪

女子組手個人戦決勝 植草（右）の上段突きが決まる



府）を3―0で破り、すべての試合で相手にポイントを与えないまま、準決勝に進出。

▽準決勝

染谷香子 5―1 齊藤綾夏

染谷が上段突きを決めて1ポイント先制。勢いに乗った染谷は、さらに上段突きで有効を立て続けに奪って齊藤を大きく離す。その後、齊藤が遠間からの上段突きを決め、1点を取り返す。しかし、染谷は間合いを詰めて放った上段突きでさらに点差を広げる。防戦を強いられた齊藤は、裏回し上段蹴りを狙うが決まらない。その後、染谷の電光石火の上段突きでポイントが加算された。齊藤は、猛攻を見せるもそのまま試合終了。染谷は5年連続決勝に進出した。

植草歩 6―0 河村菜摘

先制したの帝京大学の先輩である植草。序盤から、上段突きで点を重ねる。打ち合いも植草が制するなど、植草のペースのまま試合は進む。反撃に出る河村も刻み突きで攻めるが、植草は拳（こぶし）一個分、体を後ろに反

らして躲（か）す。そのまま時間となり、同門対決を制した植草の決勝進出が決定。決勝戦は、染谷対植草となり、前年度と同じ顔合せとなった。

▽決勝

植草歩 10―7 染谷香子

3連覇を狙う染谷と前年度判定負けを喫した植草との因縁の対決。手の内を知り尽くした両者は、それぞれ機会を見計らって攻撃に出る。前半1分間は、互いに上段への突き技の応酬で、植草は7ポイント、染谷が3ポイントとなる。後半、染谷は連突きと蹴りで反撃に出る。点差を埋めるべく放った染谷の上段蹴りが植草を捉えて、3ポイント加算。途中、相打ちで、染谷が倒れ込んで試合が止まる。結果、染谷に有効、植草には忠告が入り、試合は7―7の同点に。一進一退の攻防が続ぎ、残り20秒、植草が遠間からの上段突きを決め、刻み突きでさらにポイントを重ねる。染谷はよろけながらも必死に上段回し蹴りを狙うが、植草が中段突きを決めて勝負あり。植草が悲願の初優勝を果たした。

◆優勝者インタビュー

一番の目標 全日本 初優勝に輝く

◎優勝Ⅱ植草歩選手（千葉県）

決勝戦まで相手にポイントを許さずに圧倒的な強さを見せた。そんな植草も、本大会では、3位入賞2回、昨年は判定の末に準優勝と涙を飲んだ。

「昨年は消極的な試合で判定になつてしまった」

はじめて判定をみて腰が抜けた。「一位じゃなければ意味がない。一番の目標は全日本選手権で優勝



すること。それを目標にずっとやってきた」

あくまでも優勝にこだわる信念が今回の優勝につながった。

決勝戦、同点に追いつかれた時は、たくさんさんの声援に励まされた。

「染谷先輩とだからできた試合です。積み重ねてきたことの成果が出ました。声援を聞いて落ち着いて最後まで戦えました」

2020年東京五輪PR活動の顔でもある植草。これまで日本一になったことがなく、「私でいいのかな」との思いもあった。しかし、今回の優勝で「自信を持って広報活動にも励むことができる」と笑顔を見せた。

東京五輪で、空手が正式種目として採用されれば、彼女の金メダルが見られるかもしれない。今後注目していきたい。

組手団体戦

都道府県ごとに編成されたチームにより、点取り方式で争われた。

■男子（5人制・47チーム）

準決勝には7年連続優勝の京都府のほか、神奈川県、茨城県、前年度準優勝の東京都を破った沖縄県が出揃った。京都府対茨城県は、2―0で京都府が茨城県を降した。神奈川県対沖縄県は、2―0で神奈川県が初の決勝進出。

▽決勝

京都府	2―0	神奈川県
荒賀慎太郎	1―1	伊勢野大介
釜口幸樹	3―3	森 優太
谷 竜一	1―1	鹿島瑞生
○中島啓太	6―0	千葉大輔
○荒賀龍太郎	9―1	五明宏樹



男子決勝大将戦

決勝では、先鋒戦で京都・荒賀（慎）

と神奈川・伊勢野は1―1で引き分

け。次鋒戦、京都・釜口と神奈川・

森の対戦も、3―3で引き分け。中

堅戦の京都・谷と神奈川・鹿島も同

じく1―1で引き分け。続く副将戦、

京都・中島と神奈川・千葉の対戦は

6―0で、中島が京都の1勝目をあ

げる。勝負のかかる大将戦。京都・

荒賀（龍）が神奈川・五明を9―1

で降して、京都府が8連覇を決めた。

■女子（3人制・47チーム）

前年度優勝の千葉県と同じく準優勝の東京都が姿を消し、準決勝は混戦となった。準決勝には、京都府、岐阜県、群馬県、大阪府が勝ち進んだ。京都府対大阪府は、2―0で京都府が勝利し、5年ぶりの決勝進出。



女子決勝大将戦

岐阜県対群馬県では代表戦の末、岐阜県が初の決勝進出を決めた。

▽決勝

京都府

2-1 岐阜県

○東海志保

2-0 清家 桜

小泉咲蘭

1-7 五明真実子

○中村しおり

2-0 杉田七瀬

決勝の先鋒戦、京都・東海と岐阜・清家の対戦は、東海が2-0で勝つて先制する。続く中堅戦は、岐阜・五明が京都・小泉を7-1で降し、星を並べた。勝負は大將戦へと持ち越された。京都・中村が岐阜・杉田に、2-0で勝利。京都府は嬉しい初優勝となった。同時に、大会史上初の男女アベック優勝となった。

◎優勝Ⅱ京都府・中野秀人監督

「選手が作戦通りに動いてくれて、最後は中村しおりがきっちり勝ち取ってくれました。山場は2回戦、前回準優勝の東京都との対戦でした。そこでも、それぞれがしっかり役割、試合の流れを考えて力を発揮してくれました」

【団体戦大会結果】

■男子Ⅱ①京都②神奈川③茨城、沖縄

■女子Ⅱ①京都②岐阜③群馬、大阪

形個人戦

前年度優勝者、各地区代表、全空連推薦者が出場し、5名の審判による旗判定で勝敗を決した。

■男子（15名）

4連覇のなかった世界チャンピオンの喜友名諒（前年度優勝）は初戦（2回戦）を5-0で勝ち進む。準決勝では前年度3位の杉野拓海（北信越地区）と対戦。喜友名のアーナに杉野がガンカクで挑んだ結果、4-1で喜友名が勝利した。

準決勝第2試合では、2年連続準優勝の新馬場一世（実業団）が、1回戦、2回戦ともに5-0で勝ち上がり、準決勝では久保弘樹（近畿地区）と対戦した。両者ともにスーパーリンペイを演じ、結果は3-2の僅差で新馬場の勝利となった。

決勝は喜友名対新馬場。奇しくも3年連続同じ顔合わせ。喜友名は力強い足腰から放たれる迫力ある技が光るスーパーリンペイ、新馬場は気合いの入ったスピードのあるチャタンヤラ・クーサンクーを披露。判定では審判全員が喜友名に旗を上げ、

喜友名が4連覇を果たした。

◎優勝Ⅱ喜友名諒選手（前年度優勝）

「自分の持ち味である力強さを出しながら、武道の本質から外れないような形を意識して、毎日稽古をしてきました。近い将来、空手がオリンピックに採用される可能性が高くなってきましたので、自分もそのオリンピックでも優勝を目指して、これから頑張っていきたい」

○準優勝Ⅱ新馬場一世選手（実業団）

「諦めたらそこで終わりだと思っているので、諦めず勝てるまで、またやろうと思います。今、僕の空手人生の目指すところは、世界チャンピオン。そのためには、やはり喜友名選手を倒さないとけない」

■女子（15名）

2連覇の世界チャンピオン清水希容（前年度優勝）は、初戦（2回戦）を5-0で勝ち、準決勝第1試合で、前々回3位の大野ひかる（九州地区）と対戦。ともにスーパーリンペイを演じ、5-0で清水が今回も決勝進出を決めた。

また、全日本実業団優勝者の岩本

衣美里（北海道地区）が勝ち上がり、準決勝は岩本と矢野彩（実業団）の対戦となった。スーパーリンペイを演じた岩本が、チャタンヤラ・クーサンクーで臨んだ矢野を5-0で破って初の決勝進出。

決勝は清水対岩本の対戦。ともに5-0で勝ち上がってきた。清水はスピードとキレのあるチャタンヤラ・クーサンクー、岩本は丁寧かつ力強いアーナンを披露。互いに得意形で勝負した結果、5-0で清水が3度目の優勝を手にした。

◎優勝Ⅱ清水希容選手（前年度優勝）

「形は、一つ一つに気持ちを込めて行っています。そういう表現をこれからも、もつともつとしつかりやっていきたいと思っています。しんどい思いをしてきた年でしたが、多くの方々が支えてくれて今があります」

○準優勝Ⅱ岩本衣美里選手（北海道地区）「国内の大会でファイナルに残れたのは始めてだったので、決勝は思いつきり、自分のベストを尽くせるように集中してやりました」

優勝Ⅱ清水希容（チャタンヤラ・クーサンクー）



優勝Ⅱ喜友名諒（スーパーリンベイ）



準優勝Ⅱ岩本衣美里（アーナン）



準優勝Ⅱ新馬場一世（チャタンヤラ・クーサンクー）



NEXION

<http://www.nexion.co.jp>

メジャースポーツやイベント、ライブ、国際的な会議や事件の生中継等、ネクシオンの映像伝送技術は国や地域を問わず様々なシーンで使われています。

競技会や講演会の映像伝送、インターネットによる動画配信はネクシオンにお任せください。

スポーツイベント実績

国内外サッカー
ボクシング世界王座戦
テニス4大大会
バレーボール高等学校選手権大会
全日本大学駅伝
他、野球、競馬、競艇等の伝送を実施

その他ライブイベント実績

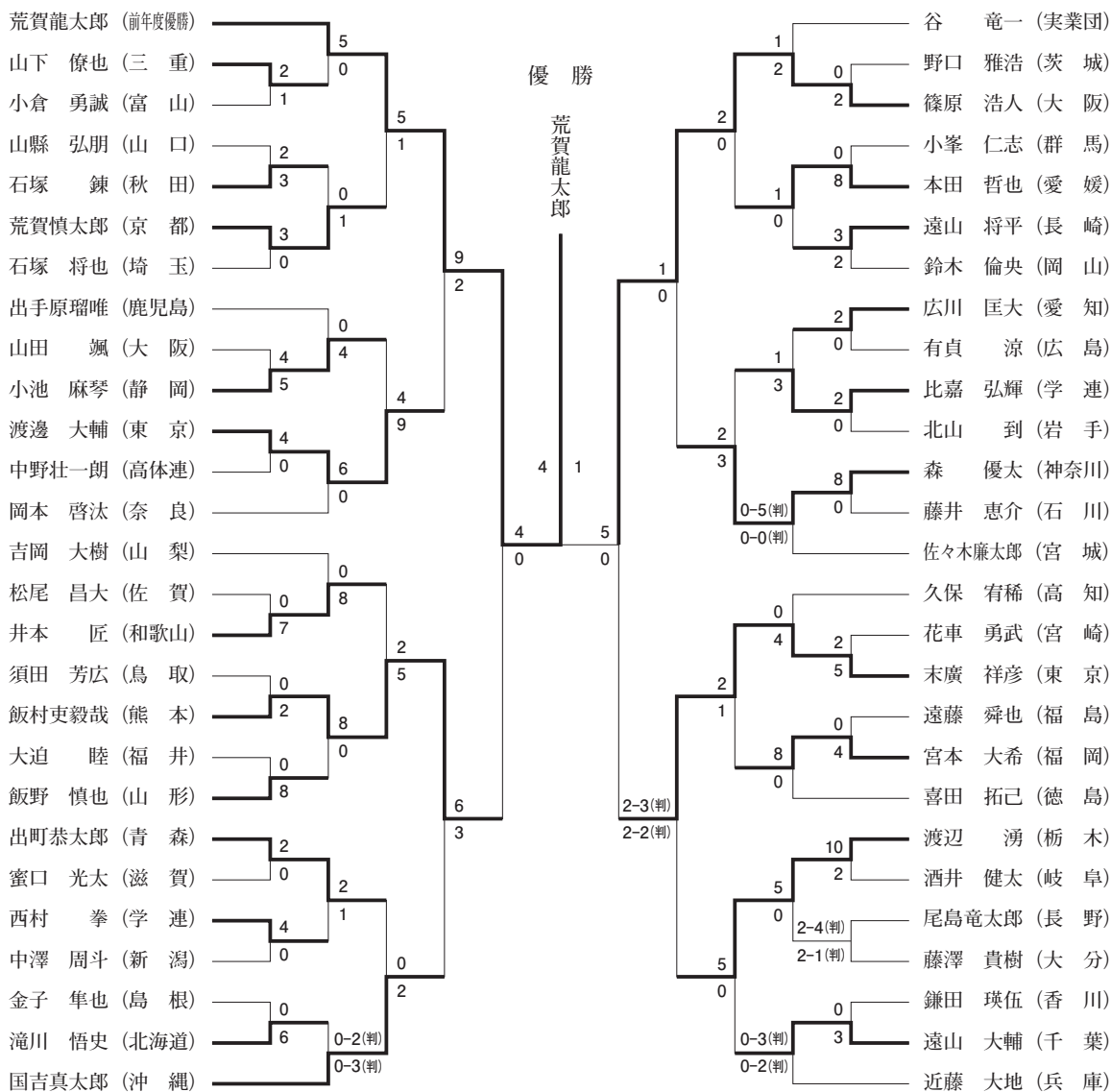
有名アーティストライブ
グラミー賞授賞式
アカデミー賞授賞式
宇宙ステーションとの交信イベント
他、様々なイベントの伝送を実施

報道実績

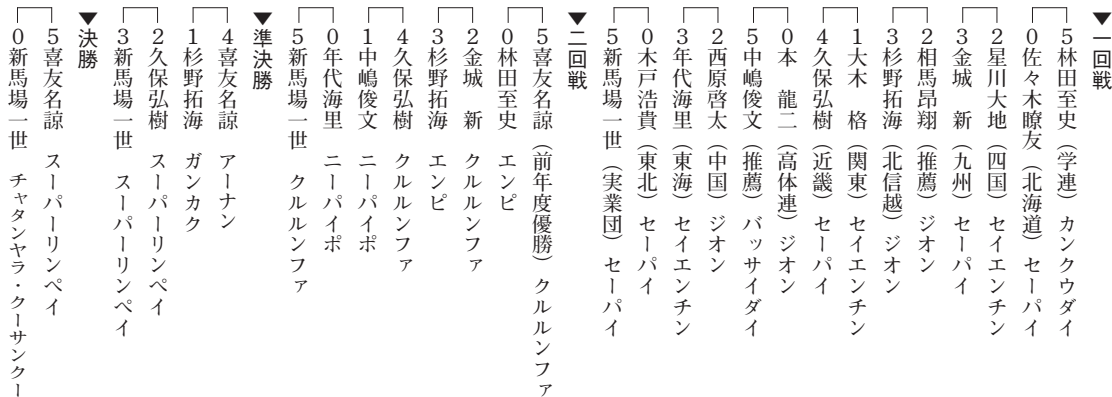
衆・参議院選挙
東京都議会議員選挙
IMF・世銀総会
COP10(生物多様性条約第10回締約国会議)
他、国内外ニュース映像の伝送を実施

ネクシオン株式会社 / 本社：東京都新宿区歌舞伎町2-4-10 KDX東新宿ビル8階 / TEL : 03-6757-1080(代表) / Mail: info@nexion.co.jp

男子組手個人戦



男子形個人戦



女子組手個人戦

[illegible]

女子形個人戦

- ▼一回戦
 - 1 古川かれん (関東) セーパイ
 - 4 森岡実久 (推薦) セーパイ
 - 0 川向七瀬 (東北) チントウ
 - 5 大野ひかる (学連) セーパイ
 - 2 田中美佐稀 (北信越) セーパイ
 - 3 字海水稀 (高体連) セーパイ
 - 1 紺屋沙也乃 (四国) バッサイダイ
 - 4 矢野 彩 (実業団) バッサイダイ
 - 3 岩佐 希 (中国) バッサイダイ
 - 2 大西ひかる (東海) バッサイダイ
 - 0 川崎衣美子 (学連) セーパイ
 - 5 岩本衣美里 (北海道) セーパイ
 - 2 山下紗葵 (近畿) セーパイ
 - 3 中村智枝子 (推薦) バッサイダイ
- ▼二回戦
 - 5 清水希容 ニーパイボ
 - 0 森岡実久 クルルンファ
 - 4 大野ひかる クルルンファ
 - 1 宇海水稀 クルルンファ
 - 4 矢野 彩 ニーパイボ
 - 1 岩佐 希 ニーパイボ
 - 5 岩本衣美里 クルルンファ
 - 0 中村智枝子 ニーパイボ
- 準決勝
 - 5 清水希容 スーパーリンペイ
 - 0 大野ひかる スーパーリンペイ
 - 0 矢野 彩 チャタンヤラ・クーサンクー
 - 5 岩本衣美里 スーパーリンペイ
- 決勝
 - 5 清水希容 チャタンヤラ・クーサンクー
 - 0 岩本衣美里 アーナン

第32回若潮杯争奪武道大会

柔道男子 国士舘(東京) 柔道女子 埼玉栄(埼玉) が2連覇



柔道男子決勝＝国士舘対東海大相模

第32回若潮杯争奪武道大会(主催Ⅱ日本武道館、国際武道大学)が12月26日・27日に国際武道大学で開催された。全国から選抜された高校生が剣道、柔道、なぎなたの各種目で熱戦を展開した。

■剣道の部(男女各24チーム)

5人制で行われ、予選は3チームによるリーグ戦、決勝は各リーグ1位のトーナメント戦で争われた。

男子決勝は、九州学院(熊本)と麗澤瑞浪(岐阜)が対戦。両校とも



剣道女子決勝＝筑紫台対奈良大附属

中堅まで引分け。副将戦で九州学院の梶谷が胴を決めて一本勝。大将戦は引分け、九州学院が麗澤瑞浪を1-0で降し、6年ぶり5回目の優勝を果たした。

女子は筑紫台(福岡)が奈良大附属(奈良)を代表戦で制し、6年ぶり2回目の優勝に輝いた。

■柔道の部(男女各16チーム)

男子5人制、女子3人制で行われた。予選は4チームのリーグ戦、決勝は各リーグ上位2チームによるトーナメント戦で争われた。

男子は決勝で国士舘(東京)が東海大相模(神奈川)を代表戦で退けて2年連続7回目、女子は埼玉栄(埼玉)が敬愛(福岡)を2-1で降して2年連続8回目の優勝を遂げた。

■なぎなたの部(男子24名、女子48名)

男女共に予選は3人のリーグ戦、決勝は各リーグ1位のトーナメント戦で争われた。

男子決勝は、中尾海太(汎愛)が鯨井瑛(埼玉栄)から面を奪い一本勝ちで勝利した。

女子決勝は、小澤柚羽香(大曲農業)が田口真耶(川辺)から面二本を決めて、優勝を遂げた。

剣道女子優勝Ⅱ筑紫台（福岡県）



剣道男子優勝Ⅱ九州学院（熊本県）



柔道女子優勝Ⅱ埼玉栄（埼玉県）



柔道男子優勝Ⅱ国士館（東京都）



剣道の大会風景



なぎなた女子優勝＝
小澤柚羽香（県立大曲農業）



なぎなた男子優勝＝
中尾海太（市立汎愛）

【大会結果】

■剣道

▽男子Ⅱ①九州学院（熊本）②麗澤

瑞浪（岐阜）③PL学園（大阪）、

県立安房（千葉）

▽女子Ⅱ①筑紫台（福岡）②奈良大

附属（奈良）③麗澤瑞浪（岐阜）、

東奥義塾（青森）

■柔道

▽男子Ⅱ①国士館（東京）②東海大

相模（神奈川）③東海大仰星（大

阪）、崇徳（広島）

▽女子Ⅱ①埼玉栄（埼玉）②敬愛（福

岡）③富士学苑（山梨）、県立熊

本西（熊本）

■なぎなた

▽男子Ⅱ①中尾海太（大阪市立汎

愛）②鯨井瑛（埼玉栄）③岡村優

一郎（岡山県立興陽、小林雄太（埼

玉県立浦和東）

▽女子Ⅱ①小澤柚羽香（秋田県立大

曲農業）②田口真耶（鹿児島県立

川辺）③佐々木卯月（岩手県立盛

岡第二、高田佳保里（國學院栃木）

ミツボシの剣道防具

